

## ◇実践活動記録

# ふるさとに学び、ふるさとを受け継ぐ子供の育成を目指して

## I はじめに

本校は、万葉ゆかりの水郷地帯に位置し、校区には「十二町潟オニバス発生地」「イタセンパラ」という二つの国指定天然記念物があるなど学習素材が豊富である。学校では、オニバスの栽培やイタセンパラの飼育に取り組むなど、地域の特色ある自然と関わってきている。子供たちは、素直で明るく、友達等のよさを感じ取ることができる。しかし、思いを豊かに表現する力が育っていない。そのような子供たちが、ふるさとの魅力に触れ、繰り返し関わる中でふるさとへの思いを深め、行動することができるように本実践を行った。

## II 活動の実際

### 1 ふるさとの魅力に触れる取組

子供たちが地域の人・もの・ことの魅力に触れることができるようにした。

#### (1) 寺院探訪 2～6年

子供たちが、校区にある寺院を訪ね、寺院の特徴や自然を十分に感じ取ることができるよう、校外学習を行った。

寺院の見学や、行程の中で、野に咲く花や、一面に広がる田園風景、緑萌立つ山々、特徴的な建物等、校区の魅力に触れることができた。

春の生き物を記録する子供、寺院で拾った葉を使ってしおりを作る子供、見つけた木の実をうれしそうに持ち帰り教室で紹介する子供、寺院で記録した写真を生かして俳句を詠む子供等、地域の魅力を十分に感じ取ることができたようであった。「今までこんなお寺があるとは知らなかった」「お寺があることは知っていたけれど詳しく知ることができてよかった、また行きたい」「お寺は屋根が大きかった。十二町には他にもすごいところがあるかもしれない」という感想をもち、校区への関心が高まったことがうかがえた。



春の草花を見つけ記録する子供



木の実を嬉しそうに紹介する子供

#### (2) ブルーベリー農園探訪 全学年

地域の農園で果物を収穫する楽しさを味わうことができるように、ブルーベリー農園を訪ねた。子供たちは、農園の方に教えてもらいながら自分の手で摘んだブルーベリーをその場で食べるなど、収穫体験を楽しんだ。「ブルーベリーを初めて食べました。とてもおいしかったです。あ



農園の方と一緒に収穫する子供

りがとうございました。農園があるなんて知らなかったの、分かってよかったです」と感謝の手紙を書いた子供のように、地域の魅力に触れ、地域に関する関心を高めることができた。

## 2 地域の人・もの・ことに関わる取組

地域の人・もの・ことに関わり、地域への思いを深めることができるようにした。

### (1) 総合的な学習の時間 「十二町の『すてき』を見つけよう」 3年

年間を通して、人・もの・ことに触れ、地域の素敵などところを見付ける活動に取り組んだ。地域に対する思いが関わるように年間の活動のテーマを、「十二町の『すてき』を見つけよう」と設定し、一人一人が素敵だと感じている場所に出かけ、その魅力を紹介し合った。「夏になると蛍がたくさん飛ぶ田んぼ」「アメリカザリガニや小さな魚がたくさんいる小川」「坂の上から見る十二町地区全体」等、魅力を感じた場所を紹介し合い、それぞれの思いに共感していた。



オニバス自生への取組を聞く子供

取材を続ける中で、オニバスの自生を目指して活動している方の思いを聞くことができたことや、「自分の家族は十二町地区の自然に魅力を感じ、家を建てる場所を選んだ」という話が聞かれたことは、地域の魅力を実感させるよい体験となった。

### (2) 総合的な学習の時間 「オニバスの観察・栽培」 4年

本校では、昭和47年から敷地内のオニバス池でオニバスを栽培・観察している。本年度も4年生が、栽培・観察に取り組んでいる。耕土、播種、間引き等の体験活動や栽培、観察の活動を通して、生命の尊さや協力のすばらしさ、地域の特徴に気付くようにした。

#### ① オニバス池の草取り、耕土、播種

子供たちがオニバス池に入り、草取り、耕土、播種作業を行った。泥の中に入ることに抵抗を感じていた子供も、積極的に作業に取り組む友達の姿を見て、恐る恐る足を踏み入れた。作業を終えて、「歩きにくかったけれど、種をまくことができてよかった。花が咲いてほしいです」と感想をもつなど、オニバスへの関心を高める姿が見られた。子供たちは、教師から「昔の水田はオニバス池と同じくらいぬかるんでいた」ことを知らされ、昔の人の苦心を想像していた。



オニバスの播種作業をする子供



オニバスの間引きをする子供

## ② オニバスの間引き

子供たちは水着を着てオニバス池に入り、間引き作業を行った。「オニバスを取るのは大変だ。昔の人は大変だったな」とつぶやく子供がいるなど、地域の特徴に気付くとともに昔の人の努力を想像することができた。

## ③ オニバスの観察

葉の枚数や大きさの変化等、オニバスの成長を定期的に観察した。11月にも水中で開花することを見付け、クラス全員で確認した。タブレットに記録したり、花に近付きそっと観察したりするなど、オニバスに心を寄せながら観察をする姿が見られた。例年は夏に開花し、県外からも花を見に来る人がいることを教師から聞き、オニバスの魅力を改めて実感したようだった。



オニバスの花を観察する子供

## (3) 社会科 「きょう土のはってんにつくす」 4年

地域の治水について調べ、話し合うことを通して、人々の生活の様子や治水に携わった人々の思いについて理解を深めるとともに、地域の一員として地域に対する思いを高めることをねらった。

ゲストティーチャーを招き、昭和時代の生活等について、知る機会を設けた。昭和時代に起きた水害の写真を見せてもらったり、消防団として治水に関わった経験を直接聞いたりすることができた。自分の家の近くで実際に水害が起きたことを知り、「十二町地区で水害があったなんて知りませんでした。昔は大変だったと思いました」「川を整備する工事をしてくれていなかったら、私の人生は今と全然違うと思います」と感想をもつ子供がみられた。この学習を通して、いろいろな人の努力によって現在の住みやすい生活が築かれていることに気付くなど、地域に対する理解を深めることができた。



水害について話を聞く子供

## (4) 総合的な学習の時間 「イタセンパラを育てよう」 5・6年

5・6年生がイタセンパラの飼育・観察を行っている。

富山大学連携研究室「氷見ラボ」から講師を招き、イタセンパラの生育環境について知る機会を設定した。十二町地区に稲作が行われていることがイタセンパラの生息する環境によい影響を与えているとの話を聞き、「これまで、稲作との関係はあまり

考えていなかったけれど、イタセンパラにとってよい環境をつくるために大切だと分かった」「イタセンパラが住み続けられるように、今の環境を守らなければいけないと思った」と、それまで無関心だった地域の環境について考える姿が見られた。



水温測定、水草取り、餌やり  
継続的に活動する子供



生育環境について話を聞く子供



生息地で生育環境を調べる子供

### 3 地域への思いを深め行動する取組

地域での学びを通して思いを深め、働きかけることができるようにした。

#### (1) 獅子舞クラブの活動 4・5・6年希望者

地域の文化に誇りをもち、受け継ごうとする心情を育てたいと考え、クラブ活動の時間に、ゲストティーチャーを招き、地域に伝わる獅子舞の練習に取り組んでいる。例年、学習発表会等の機会に保護者や地域へ発表をしてきた。下級生だったころに見た発表に心惹かれて参加を希望する子供や、地域での獅子舞が印象に残り参加を希望する子供がいる。クラブでは、ゲストティーチャーが地域に伝わる獅子舞の型（天狗、獅子頭）を指導して下さる。慣れない動きに戸惑いながら、懇切・丁寧に教えていただきながら練習に取り組むうちに、自然と笑顔が増え、獅子舞の型通りに踊ることができるようになってきた。今年度は、コロナウイルス感染症対策のために、対面での発表の場を設定することはできなかったが、学校のホームページを通して動画を配信し、講師の方や保護者をはじめ地域の方に見ていただけるようにした。動画撮影当日には、地域の方にも協力をいただき、衣装等を着けて行った。衣装を着た姿を友達と見合うなど、



獅子舞の型を教えていただく子供

獅子舞独特の雰囲気を実感し、力いっぱい舞うことができた。この取組は新聞で報道され、様々な方に声をかけていただいた。クラブで活動している子供たちは、次のような感想をもった。「獅子舞クラブで頭をしています。とても楽しいです」「私は3年間天狗をしています。一つ一つの動きを丁寧にするように頑張っています」「私は、獅子舞クラブで天狗の練習をしています。十二町地区の獅子舞を未来に残していきたいという気持ちで頑張っています」

「利賀村と十二町の獅子舞は動きが全然違いました。でも、獅子舞への思いは同じだと思います。これからも獅子舞を残していきたいと改めて思いました」

子供たちの感想から、地域に伝わる獅子舞の魅力を十分に感じ、未来へ受け継いでいこうという思いが感じられた。

## (2) 総合的な学習の時間 3～6年

総合的な学習の時間での学びを、地域に発信することで、地域への思いを深めるとともに、地域への所属感を高めたいと考えた。発信する内容について精選することで、「いつまでもきれいな十二町であるように頑張りたい」等と地域への思いを深めることができた。



獅子舞の動画撮影を行う子供



学びを発信した資料

## III 成果と課題

- 地域の魅力を十分に感じることができるよう活動を工夫したことにより、地域への関心を高めることができた。
- 地域の魅力と出会い、関わり、働きかけることができるように、活動を展開したことで、地域への思いを深め、受け継ごうとする態度を育てることができた。
- ・地域教材が教科等の学習において、効果的に位置付くようにカリキュラムマネジメントを工夫する必要がある。

## IV おわりに

子供たちは地域で学び、人・もの・ことの魅力に気づき、自分の生活はいろいろな支えによって築かれていると知ることができた。そして、学んだことを地域の皆さんに知ってもらおうと、資料をまとめた。その姿に、子供たちがふるさとでの活動を通して確かな学びを得たことや、地域に主体的に関わろうとする態度が育ってきたことを実感している。今後も、子供たちが、ふるさとに学び、ふるさとを受け継ごうとする心情が育つことを願って、ふるさと学習を推進していきたい。